様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年　４月　２７日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008　～2011
課題番号：20730127
研究課題名（和文）　内生的成長理論を用いた世界の二極化構造の動学的解明

研究課題名（英文）　Dynamical Analysis of Polarization of the World Economy By using Endogenous Growth Theory

研究代表者　桑原　史郎（　KUWAHARA SHIROU　）
筑波大学・大学院システム情報工学研究科・講師
研究者番号：20451685

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学・理論経済学
キーワード：マクロ経済学・経済成長理論

１．研究計画の概要
本研究は長期の成長の源泉たる技術進歩を内生的に組み込んで長期の成長率の要因を分析する内生的成長理論に，様々なこれまで検討が不十分であった要因，資本の働きや貨幣的性質，企業の参入・退出，知識の海外への漏出等を新たに入れて，多様な成長率，特に成長する国と貧困の罠に沈む国の二極化や複数均衡性，レジーム変化モデル分析し，更にはそのモデル分析から帰結される有効な政策を提言しようとするものである。

２．研究の進捗状況
資本や知識の漏出を組み込んだモデルは基本的に完成し完成度を高めている段階である。貨幣的モデルは結果の分析に，企業モデルは設定の仮定に未完成な部分を残している。

３．現在までの達成度
いずれの研究もそれなりの到達度に達しつつあるが取り敢えずの目的である査読付き英文誌への採択には至っていない。

４．今後の研究の推進方策
基本モデルが完成した研究に関しては peer-review を参考に研究の細部を詰めて最終年度内での採択を目指す。未完のものは早期に完成させる。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
“Weberian Approach on Economic Development in a Schumpeterian Growth Model”2008 年 筑波大学 SSM Discussion Paper No.1200

“Entry, Exit, and Endogenous Growth” 2008-043, Keio/Kyoto Joint Global COE Discussion Paper Series with K.Hori

“Does international knowledge spillover always leads to a positive trickle down?” 2010 年 筑波大学 SSM Discussion Paper No.1256

〔学会発表〕（計３件）
"Weberian Approach on Economic Development in a Schumpeterian Growth Model"2008 年 7 月 阪大木曜研究会

"Polarization, Poverty Traps and Regime Switch in the Process of Economic Development"2009 年大阪府大理論・計量経済学セミナー

"Entry, Exit, and Entrepreneurial Endogenous Growth" マクロ経済学研究会（京大堀勝彦氏と共同研究）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

〔その他〕